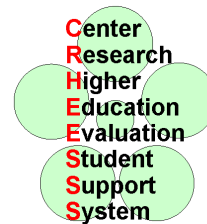


週刊センターニュース No.321



第321号(2010年8月23日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

〇〇〇 CP (カリキュラムポリシー) ・DP (ディプロマポリシー) 策定とFD 〇〇〇

第2期中期目標・中期計画に沿って、カリキュラム検討委員会の下にCP・DP策定WGが組織され、提示されたCP・DP策定の指針に基づき、現在全学類においてCP・DP策定作業が進められている。当センターもカリキュラム・評価システム研究会により、国内外のCP・DPの事例の紹介等を通して支援を行っている。

CP・DP策定WG座長により提示された学類のDPの定義は、「学類の教育目的や教育方針に沿って、学類において具体的に養成すべき人材像が示されたもの。」となっている。すなわち、DPの策定は、学類の教育目的や教育方針を具体的な人材育成目標として宣言することを意味している。そして、CPは、人材育成目標を達成するためにどのようなカリキュラムと授業科目が用意されているかを可視化するものである。CP・DPによって本学の人材育成目標とその達成のための教育システムの全体像を社会に明示し、また人材育成目標が妥当かどうかを常に検証することにより、CP・DPはカリキュラムおよび各授業科目の教育内容・方法を改善するための装置として機能するであろう。

CP・DP策定作業においては、学類、コース(専攻、専門分野)の単位で、所属教員同士が個々の授業科目の到達目標と授業科目間の関係性を把握し、所属教員が共有できるDPについて検討されることになるであろう。これは、FDすなわち「授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究」そのものであり、CP・DP策定作業は、各学類等のFDと位置づけられる。例えば、山口大学では、CP・DP(山口大学では、DPをGP=グラジュエーション・ポリシーと呼んでいる。)の意義や役割についての共通理解を深めるために、各学部・研究科の全教員が出席する拡大教授会等の場で「教育改善FD研修会」が開催されている。

DPすなわち人材育成目標をいかなるレベルに設定するかについては各学類、コース等で議論されることになる。例えば、山口大学のDP(GP)は、「教育活動の成果を通して学生に保証する最低限の基本的な資質」と定義されている。人材育成目標のレベルは学生の実態と社会の要請の双方に基づいて設定されるべきであるが、各授業科目レベルでの到達目標の妥当性の検証と卒業生など社会から見たDPの妥当性の検証とを継続的に行い、DPの見直しが可能となる仕組みを用意することが重要と思われる。山口大学では平成20年度に採択された教育GPの一環として、サイバースペースである「オンライン知の広場」を新設し、DP(GP)の検証・改善を図っていくために卒業生からの意見を聴取する場を整備しつつある。本学工学部は、平成12年度より現在まで卒業生による達成度評価アンケートを実施している。このアンケートでは、「実験を通しての科学的分析・理解能力」、「異分野技術者に対する協調性・指導力」、「最新の工学ツール運用能力」など8項目の卒業時に達成されるべき能力を設定し、これらの能力について卒業生に職場でも必要となる能力であるかどうか、また卒業時点でどの程度身についたかどうかを5段階評価で回答させている。設定された「卒業時に達成されるべき能力」

を社会の現場の視点で評価し、さらに卒業生の在学時期のカリキュラム、授業科目の実態と「卒業時に達成されるべき能力」との整合性を明らかにしようとするものである。CP・DP策定後になるが、DPを見直す仕組みについて全学での検討が必要である。

CP・DP策定WG座長により提示された定義によれば、CPとは、カリキュラム編成方針とカリキュラムの特性を表明したもの、さらにDPに対応する学習成果（ラーニング・アウトカムズ）と各授業科目との対応表（カリキュラム・マップと呼ばれる。）を意味する。カリキュラム・マップによって、どの授業科目がどのような学習成果の達成に寄与するかを知ることができる。したがって、CP策定のためには、授業科目の到達目標と成績評価について教員間での十分な検討が必要である。この点については、第1回CP・DP策定WGにおいて座長より、「策定作業と関連して、22年度後期に、各学類で、「各科目の達成目標と成績評価基準を明確にし、厳格に運用するためのFD」を開催する（22年度計画【10-1】）。FD委員会との連携。」との説明があった。CP策定もまた、各学類等でのFDと連動して行われることになる。

以上のように、CP策定は各授業科目の到達目標の明確化と密接に関わっている。例えば、金沢工業大学では、各授業科目の成績は、その科目の到達目標をどの程度達成したかによって評価することから、「成績評価」ではなく「達成度評価」と呼ばれている[1]。しかし、達成度評価の評価指標の設定については様々な議論がありうる。当センターでは、「厳格な成績評価に関する理論研究、学内外における取り組みやその課題を把握し、本学に適した方法について調査研究を行う。」ことを、本年度からの重点事項の一つとして設定しており、各学類のFDで参考にしていただける知見を集積しつつある。

（文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭）

【参考資料】

[1] 研究プロジェクト中間報告「大学の学習成果を軸とする教育・評価・エビデンスの発信を可能とする体制についての研究」大学評価・学位授与機構調査研究プロジェクト（2010年5月）
http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/index.html

○●○ 新着資料のお知らせ ○●○

大学教育開発・支援センターに、全国の大学・大学教育センター等から各種報告書が届いております。資料は、図書室（総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい）に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

- ・ 『魅力ある授業のために2-双方向型授業の取り組みを中心に』大阪大学大学教育実践センター、2010年
- ・ 『長崎大学FD・SDシンポジウム ファカルティ・ディベロップメントの再構築-サバイバル戦略としての組織的教育支援・学習支援 報告書』長崎大学大学教育機能開発センター、2010年
- ・ 『国際シンポジウム 2010-学生中心主義教育の実践と課題 報告書』放送大学 ICT活用・遠隔教育センター(CODE)、2010年
- ・ 『多人数講義における双方向的授業の工夫-旗揚げ式とクリッカー式方式の実践例』関西学院大学総合教育研究室、2009年、関西学院大学出版会